



この資料はギブン・イメージング社(イスラエル)が2008年12月8日に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。

報道関係者各位

**ギブン・イメージング社  
メドトロニック社から胃食道逆流症(GERD)診断用 Bravo<sup>®</sup> pH モニタリングシステムに  
関するビジネスを買収**

**－消化管製品ポートフォリオと競争力を強化－  
－買収により売上と利益の増加予想－**

イスラエル ヨクナム、2008年12月8日：ギブン・イメージング社(NASDAQ: GIVN)は本日、メドトロニック(Medtronic)社(NYSE: MDT)から胃食道逆流症(GERD)検査の Bravo<sup>®</sup> pH モニタリングシステムに関するビジネスを2,000万ドルで買収したことを発表しました。Bravo<sup>®</sup> システムは、胃食道逆流症の、カテーテルを使用しない唯一のワイヤレス pH 検査システムです。食道に一時的に固定するディスポーザブルのカプセルを使用し、食道の pH レベルを測定してそのデータを外部受信装置へ送信するシステムです。

pH テストは、胃食道逆流症検査のゴールドスタンダードと考えられており、2007年では258,000件の pH 検査がアメリカ合衆国で実施されました。データモニター(Datamonitor)社の推定によると、アメリカ合衆国、日本、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、そしてイギリスの人口の約20%にあたる約1億4,700万人が胃食道逆流症を患っています。Bravo<sup>®</sup> pH モニタリングシステムは主にアメリカ合衆国で販売されており、その多くが保険適用となっています。また、ヨーロッパでも販売されています。

ギブン・イメージング社のホミ・シャミール社長兼 CEO は次のように述べています。「Bravo<sup>®</sup> pH モニタリングシステムは、ワイヤレスカプセルを使用した患者様に優しい胃食道逆流症検査で、当社の消化管検査ツールである革新的な PillCam<sup>®</sup> プラットフォーム(ギブン画像診断システム)に、戦略上重要な相乗効果をもたらすものです。Bravo<sup>®</sup> システムを我々のカプセル内視鏡製品のポートフォリオに加えることによって、消化器疾患の患者様との関係をより深め、競争力を強化し、会社の株主価値を高めることができます。2009年において、Bravo<sup>®</sup> システムは当社の売上に約1,200万ドル貢献すると予測しています。また、Bravo<sup>®</sup> システムの製造拠点をアメリカ合衆国からイスラエルに移行した後は、利益増も実現できると予測しています。ギブン・イメージング社は、3種類の PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡と Agile<sup>™</sup> カプセルとともに、Bravo<sup>®</sup> システムの市場での普及を図り、増加の一途をたどる胃食道逆流症の患者様の診断と治療を支援していきます。」

ギブン・イメージング社は、契約に基づき、メドトロニック社に2,000万ドルを支払います。これには、メドトロニック社で進行中の新たなカプセル デリバリー システムの開発の完成が条件として含まれています。取引完了後12ヵ月間、メドトロニック社は Bravo<sup>®</sup> 製品をギブン・イメージング社に継続的に供給します。この間にギブン・イメージング社は Bravo<sup>®</sup> システムの製造を、イスラエルに完全に移行させる予定です。ギブン・イメージング社は、この買収に関連し2008年第4四半期において約500万ドルの一時金を計上する予定です。

カテーテルを使用しない Bravo<sup>®</sup> pH モニタリング システムは、カプセルで pH データを収集し、無線遠隔測定器を介して患者様が装着したポケベル・サイズの小さな受信機に送信するシステムで、pH 検査方法を根本から変えました。従来の pH 検査は、まず非常に小さなカテーテルを鼻孔から胃まで挿入し、次にインピーダンス pH プローブと呼ばれる別のカテーテルを鼻孔から食道まで挿入して 24 時間留置して検査するものです。Bravo<sup>®</sup> システムによる pH 検査は、従来の PH 検査に伴うのどの炎症、睡眠困難、飲食の際の不快感に対抗するものです。

Bravo<sup>®</sup> システムでは、患者様は普段通りに食事や活動を行うことができます。Bravo<sup>®</sup> システムはまた、従来のカテーテルを使った pH 検査に伴う、のどや鼻の不快感を最小限に抑え、pH 検査を行っていることが外部からわからないため、従来の pH 検査に伴う外見上の懸念もありません。さらに、pH データの収集を、従来のカテーテル検査で可能な 24 時間からさらに 24 時間延長し、48 時間検査ができるため、Bravo<sup>®</sup> システムによって医師は正確な胃食道逆流症の診断に必要な追加データを得ることができます。The American Journal of Gastroenterology (米国消化器病学会雑誌) で発表された 2003 年の研究によると、Bravo<sup>®</sup> システムによる 48 時間のモニタリングで、非定型的兆候と逆流現象の間に関係がある可能性が高いことが判明しました。Bravo<sup>®</sup> pH モニタリング システムは、50 以上の論文審査のある学術誌や学会紙で取り上げられ、また強固な知的財産権で保護されています。

## 胃食道逆流症について

胃食道逆流(または胸焼け)は、胃の内容物が食道に逆流する際に起こります。偶発的な胸焼けは正常ですが、胃食道逆流性疾患が原因で引き起こされる慢性的な胸焼けは日常活動に影響を与え、食道に損傷を起こします。治療されないまま放置されると、胃食道逆流症は下記のようなさらに深刻な内科的疾患を引き起こす可能性があります。

- ・ 嚥下障害
- ・ 嚥下痛
- ・ 食道狭窄
- ・ バレット食道(前癌状態)
- ・ 慢性嗝声あるいは慢性喉頭炎
- ・ 呼吸障害(咳嗽、ぜんそく)

## ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、消化管疾患を発見するための、革新的で患者様に優しい製品を開発、製造、販売することで、消化管の診断に新たな定義をもたらしています。ギブン・イメージング社のテクノロジープラットフォームは、カプセルの中に小さなカメラを装着し、患者様が嚥下する使い捨ての PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡と、データレコーダ、RAPID<sup>®</sup> ソフトウェアからなります。ギブン・イメージング社では、数種類のカプセル内視鏡を販売しており、アメリカをはじめ 60 カ国以上で発売されており、これまで世界で 82 万以上の患者様が PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡検査を受診しています。ギブン・イメージング社が販売するカプセル内視鏡には、小腸全体を検査することができる小腸用カプセル内視鏡(第 2 世代製品)「PillCam<sup>®</sup> SB 2」の他、食道用カプセル内視鏡(第 2 世代製品)「PillCam<sup>®</sup> ESO 2」、大腸用カプセル内視鏡「PillCam<sup>®</sup> COLON」、そして PillCam<sup>®</sup> カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか開通性をみるための「Agile™ Patency カプセル」があります。PillCam<sup>®</sup> COLON は、欧州では CE マークを取得し販売されていますが、アメリカではまだ販売にいたっておりません。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクナムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。

ギブン・イメージング社の大株主は、Elron Electronic Industries (NASDAQ & TASE: ELRN)です。さらに詳しい情報が知りたい方はこちらをご覧ください。 <http://www.givenimaging.com>

## 今後の見通し

このプレスリリースは、米国の 1995 年民間有価証券訴訟改革法の免責条項内での見通しを含んでいます。これらの見通しは、私たちのビジネス、将来の収益、経費、収益性に関する予測などが含まれますが、これらの予測に限りません。見通しは、「可能性がある」「予期する」「見積もる」「期待する」「意図する」「予定する」「確信する」といった将来を示唆する用語を伴いますが、必ずしもそうでない場合もあります。見通しは、既知および未知のリスクと不確実性および、出来事、結果、業績、状況または企業の達成事項を引き起こす可能性のある他の要因を含みますが、見通しで述べられた将来の出来事、結果、業績、状況または達成事項は著しく異なることがあります。見通しとは異なる出来事、結果、業績、状況と達成を引き起こす要因としては、下記を含みますが、下記に限りません。(1) 新製品を開発し、市場に投入する能力(2)規制当局の認可、弊社製品の販売許可、または規制環境の変化に対応できる当社の能力 (3) 当社の販売、マーケティング、生産計画の成功 (4) 特許および他の知的財産権の保護と有効性 (5) 為替レートの影響 (6) 競合他社の影響 (7) 重大な訴訟結果(8) 私たちの製品に対して政府および商業的保険者から保険収載を得る当社の能力 (9) 四半期の業績の変動 (10) イスラエルにおける武力衝突または市民または軍による騒乱 (11) 米国証券取引委員会に提出され公開されている他のリスクと要因は、Form 20-F で提出した 2007 年 12 月 31 日に終了した年次報告書に掲載されている Risk Factors (リスク要因)、Cautionary Language Regarding Forward Looking Statements (将来の業績に関する見通しの注意事項)、Operating Results and Financial Review and Prospects (営業成績と財務概況と見込み)の表題で記載されていますが、これらに記載されているリスクと要因に限りません。このプレスリリースに含まれる見通しはプレスリリースの日付時点のものであり、過度に信用を置かないようにしてください。関連する証券取引法に基づき重要情報を公開する義務以外は、企業には見通しの変更や、出来事、予期せぬ出来事の発生を公表する義務はありません。

###

注) 日本では、PillCam<sup>®</sup> SB カプセル内視鏡(小腸用)のみ、承認、販売されています。また国により適応が異なっています。